

島根県のがん登録2018年(平成30年)集計

すべての県民が、がんを知り、がんの克服を目指すために

がん対策を推進していくためには、がんの発生動向を的確に把握することが大切です。そのため、島根県では全国がん登録により収集された島根県のがん登録データを分析し、県民をはじめ、がん医療に関係する皆様に情報提供することで、皆様と一体となってがん対策に積極的に取り組んでまいります。

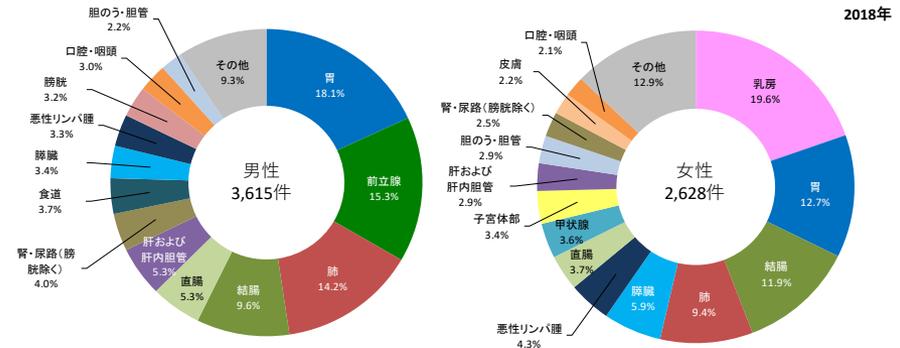


島根県健康推進課
第6150号

1. 島根県でがんにかかった人の数

2018年の島根県における上皮内がん*1を除く罹患数は、6,243件（男性3,615件、女性2,628件）でした。

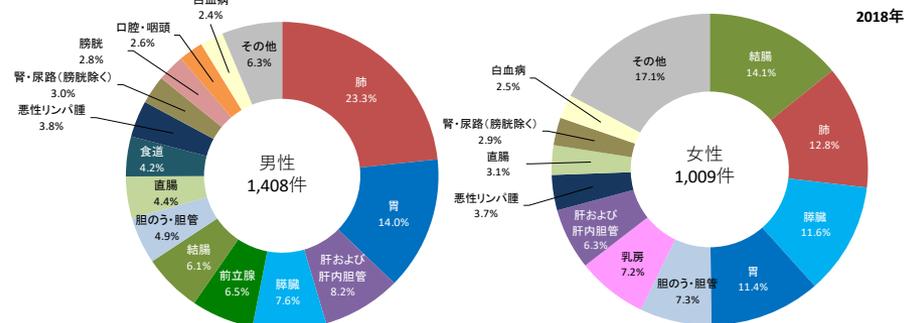
部位別にみると、男性では胃がんが最も多く、次いで前立腺がん、肺がん、結腸がん、直腸がんと続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは、3番目に多くなります。女性では乳がんが最も多く、次いで胃がん、結腸がん、肺がん、膵臓がんと続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは、2番目に多くなります。



2. 島根県でがんによりなくなった人の数

2018年の島根県でがんを原因とした死亡数は、2,417件（男性1,408件、女性1,009件）でした。

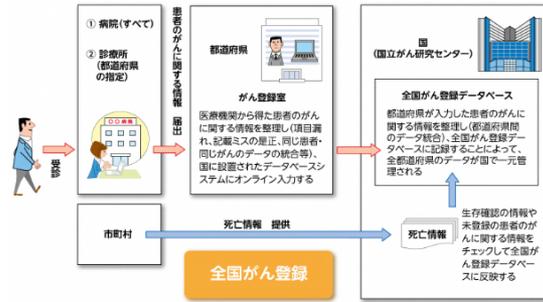
部位別にみると、男性では肺がんによる死亡が最も多く、次いで胃がん、肝および肝内胆管がん、膵臓がん、前立腺がんと続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは、3番目に多くなります。女性では結腸がんによる死亡が最も多く、次いで肺がん、膵臓がん、胃がん、胆のう・胆管などと続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは、1番多くなります。女性の罹患数比較的多い乳がんは、死亡数がそれほど多くないことがわかります。



7. がん登録と個人情報の保護

がん登録は病院や指定診療所から患者さんの診断や治療の情報を収集することで成り立っています。このため、患者さん個人の特定につながる情報の安全管理に配慮して、情報の収集、保管、活用を行っています。

がん登録等の推進に関する法律では、全国がん登録の業務に従事する者の秘密漏示等の罰則規定が定められており、島根県でも、全国がん登録における個人情報保護のための安全管理措置マニュアルに従って全国がん登録島根県がん情報管理要領を定めて、適正に管理を行っています。



8. がん登録データの活用

本リーフレットは、全国がん登録の島根県版がん登録報告書の抜粋ですので、報告書全体については下記の島根県ホームページからご覧いただけます。

報告書に掲載されていないデータについては、がん登録等の推進に関する法律に基づき活用していただくため、全国がん登録における島根県がん情報等の提供に関する事務処理要領を定めております。市町村、病院等、ならびにがんに係る調査研究を行う方は島根県ホームページをご確認のうえ、島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室までお問合せください。



島根県のがん登録



<https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/kenko/gan/gantouroku-data/gantouroku.html?site=sp>

- *1 上皮内 限局 リンパ節転移 隣接臓器浸潤 遠隔転移
- *2 領域とは、領域リンパ節転移と隣接臓器浸潤を含む

2022(令和4)年1月 発行
編集 島根県がん診療ネットワーク協議会
発行 島根県健康福祉部健康推進課
〒690-8501 島根県松江市殿町1番地
tel (0852) 22-6701 fax (0852) -22-6328



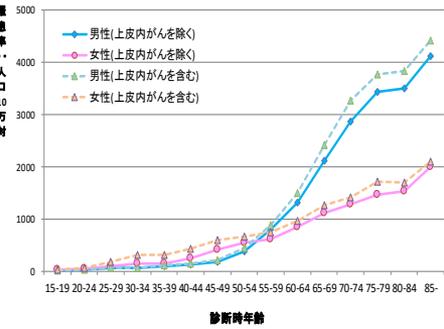
健康長寿しまね
マスコットキャラクター
「まめなくん」

3. がんにかかりやすい年齢

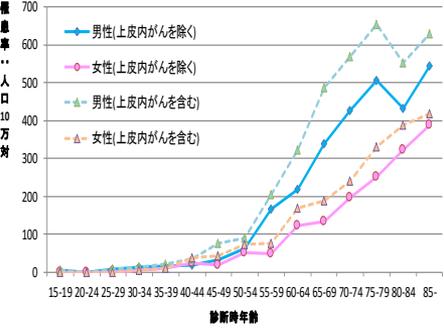
全部位については性別年齢階級別にがん罹患率をみると、25歳から54歳では女性の罹患率が高い。これらは、乳がん、子宮がんなどが影響している。55歳以上の年齢では男性の罹患率が女性より高い。

多くの部位では40歳代から50歳代以降、年齢が高くなるにつれて罹患率が高くなっているが、乳がん、子宮がんなどではより早い年代から罹患率が高くなる。乳がんの上皮内がんを含めたがん罹患率は30歳代から罹患率が高くなる。子宮頸部がんの上皮内がんを含めたがん罹患率は20歳代から罹患率が高くなり、20歳代から40歳代では上皮内がんの割合が多い。

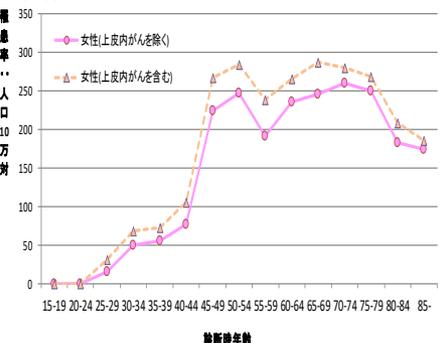
全部位



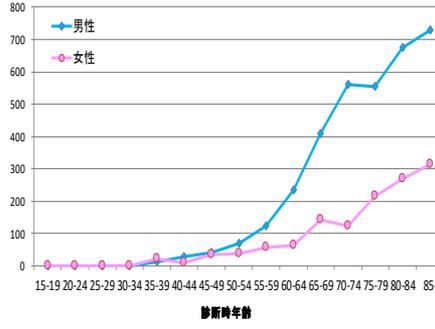
大腸



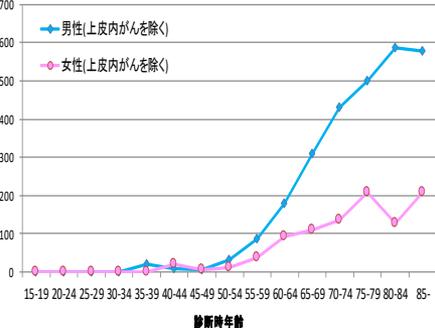
乳房



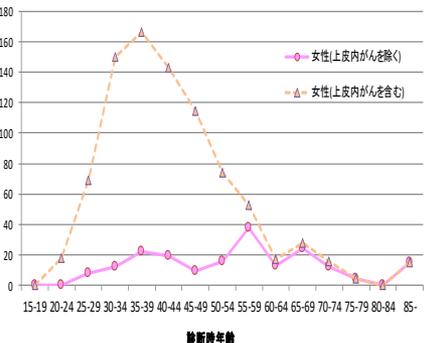
胃



肺

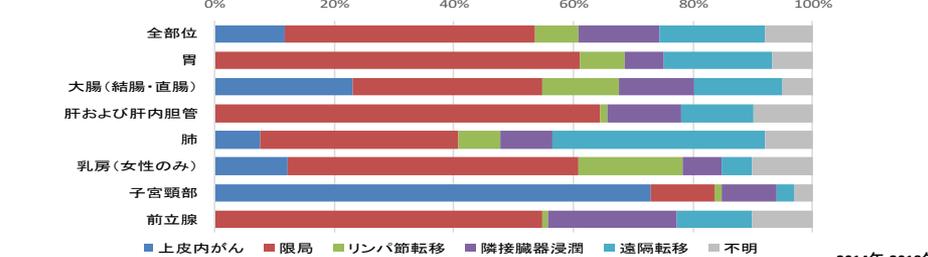


子宮頸部



4. がんの病巣のひろがり

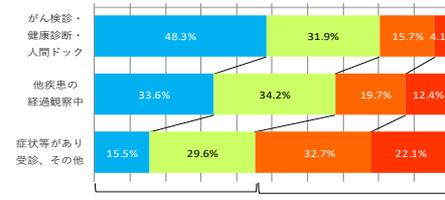
診断時のがん病巣のひろがりを見ると、部位によって進行の程度が異なることが分かります。主ながんで診断時に上皮内、限局にとどまっている割合をみると、胃がん、大腸がん、肝および肝内胆管がん、乳がん、前立腺がんは6割程度、子宮頸部がんは8割を超えています。肺がんは、診断時に遠隔転移の割合が多いです。



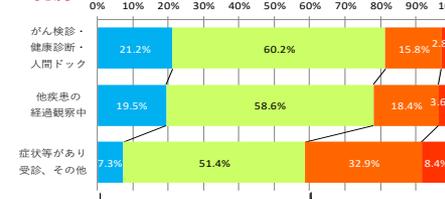
5. がんの発見経緯と病巣のひろがり

がんの発見経緯とがん病巣のひろがりを見ると、症状等があり発見された場合は、がん検診・健康診断・人間ドックで発見された場合よりがんが進行していることが分かります。がんの初期には症状が出ないことが多いので、がん検診を積極的に受診しましょう。

大腸

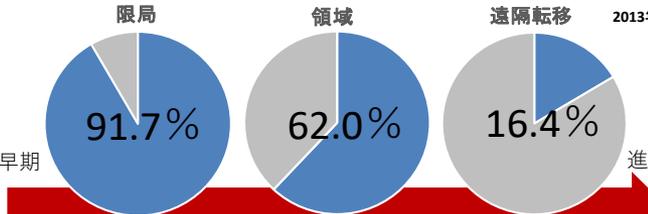


乳房



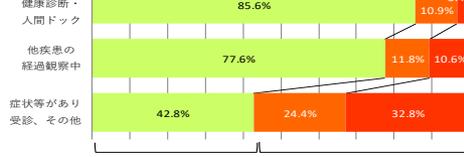
6. 病巣のひろがりと5年生存率 (全部位)

部位によって5年生存率は異なりますが、全部位の病巣のひろがり別にみると、限局91.7%、領域*62.0%、遠隔16.4%です。早期で発見されるほど生存率は高くなります。

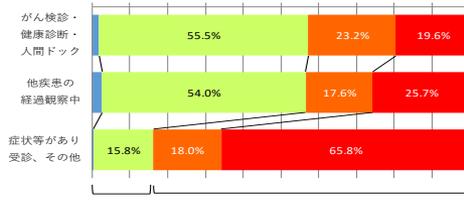


2014年-2018年

胃



肺



子宮頸部

